

## 1. 活動の概要

10月2日(火)、安来市立母里小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに、島根県埋蔵文化財調査センターの職員から安来市内の遺跡と古墳について話を聞きました。安来市内には900カ所以上の遺跡があり、古墳は200カ所を超えること、母里小学校の近くにも多くの遺跡があることを学びました。また、古墳の形や出土品、古墳がなぜつくられたのかについてもお話をききました。出雲を中心に分布する四隅突出型墳丘墓。次に古代の玉についても学習しました。古代の玉と現代の玉(宝石)との違いについて。

その後、校区内にある遺跡から出土した本物の土器や鉄の大刀、玉湯町などで出土した玉作りの道具などを見ました。土器や玉・玉作りの道具については触ったり持ってみるなどして、重さや感触を確かめていました。

休憩のあと勾玉づくり体験を行いました。真四角な原石に勾玉の形を描くことから始めましたが、体験の時間が予定より短くなってしまい、残念ながら完成させた児童はごくわずかでした。でも思い通りの形につくる難しさや、固い石をきれいに磨き上げた古代の人たちの技術のすばらしさがよく理解してもらえたようでした。

## 2. 活動の様子

### 1) 安来市内の遺跡について学ぶ・古代の玉について知る



「古墳にはいろいろな形のものがあります。」



「小学校の近くにある遺跡から出土したものです。」



「砥石ってほんとにつるつるしている〜。」



「昔の人がこの土器を使ったんだね。」

## 2) 古代体験活動～玉作り～



「玉の作り方を説明します。」



「どんな形の玉をつくらうかな。」



ひたすら削っていきます。



古代衣装を着て記念撮影

## 3. 子ども塾を終えて

### 1) 児童の皆さんから…

- 勾玉づくりで、石を削るのが難しかったけれど楽しかった。
- 古墳の種類が前方後円墳、円墳、方墳の他にもあることがわかった。
- 伯太にも遺跡や古墳がたくさんあることを知って驚いた。
- 柔らかい石でも勾玉作りが難しかったのに、昔の人は固い石で道具も少なかったのに大変だったろうな。
- 昔の人は1つの勾玉を何日かかっていたのか？
- はにわや土器づくり、火起こしをやってみたい
- 昔の人の住まい、服、食べ物について知りたい

### 2) 担任の先生から…

- 地域の古墳や遺跡について知ることができ、また出土品の実物を見て、触れることができて良かった
- クイズ・ワークシートなどあった方が、児童がより集中して話が聞けるかも知れません

### 3) 埋文センターから

アンケートでも、自分たち住む地域に、多くの古墳や遺跡があることが心に残ったという回答がいくつかありました。本物の土器や玉、玉作りの道具を見たときには、きれいに磨かれた玉や、使い込まれて滑らかになった砥石に実際に触れてみて、古代の人々の技術に感心していました。勾玉づくりでは、体験活動の時間が短くなっている、仕上げまでできた児童は少なかったですが、皆さん楽しい体験となったようです。先生からのご意見にあったように、学習(座学)の中で、児童の皆さんに資料を配ったクイズを入れるなど、もう少し工夫できる場所があったなど反省しています。